



## 生徒の個性を引き出す対話型授業

### PROFILE

**大木 浩士** おおき ひろし (株式会社博報堂 H-CAMP企画推進リーダー)

1968年生まれ。栃木県出身。千葉大学卒業後、経営コンサルティング会社を経て、2001年より博報堂勤務。マーケティングや広告制作等の業務を経て、2013年に中学生・高校生を対象とした教育プログラム「H-CAMP」を立ち上げる。7年間で600回以上の対話型授業を開催。2016年には、経済産業省が主催する「キャリア教育アワード」で、経済産業大臣賞と大賞を受賞。著書に『博報堂流・対話型授業のつくり方』(東洋館出版社)がある。



### 1 多様な個性の大切さ

対話型の授業を通して、生徒たちの個性を引き出したい。会社の社会貢献活動として、中高生を対象に8年前から行っている対話型授業。その講師をつとめる際に、私が常に意識していることです。

博報堂は、課題を解決するための企画やアイデアを考えることが仕事です。社会に存在する多様な課題。その解決策を考えるには、様々な個性を持つ、人の力が必要です。そのため博報堂では、『粒ぞろいより、粒ちがい』という言葉大切に、異なった多様な個性を社員に求めています。

人には個性があります。それは中学生や高校生でも、すでに持っているものです。他の誰とも違う、独自の感性を持つ生徒たち。そのオリジナリティを私は心から尊重し、育みたいと思っています。それが未来を担う人材づくりのために、非常に重要だと考えるからです。

対話型授業、特に「正解のない問い」を提示する授業は、生徒の個性を引き出す有効な手段になります。

正解のない問いに向かい合い、まずは個人で自由に

答えを考えてみる。その後、数名のチームになり、考えたことを紹介し合う。他者の意見に触れることで、自分と他者との違いを知ることができます。

また他者の発想が刺激となり、自分の思考に化学変化が起こり、ひらめきが生まれます。そのひらめきを他者に話すと、「すごい!」と言われる。それが、喜びや自信につながっていく。そんな体験機会を重ねることで、自分ならではの発想世界が広がり、個性が育まれるのだと思います。

博報堂の文化

粒ぞろいより、  
粒ちがい

### 2 個性を引き出す話し合いの技術

生徒の個性を引き出す、話し合いの場づくり。その内容や進め方を考える際に、私が大切にしていることを3点ご紹介します。

①まずは、自分の中から答えを探す。授業時間の長さにもよりますが、私は問いを“段階的”に設計します。生徒たちに考えさせたい課題、つまり本題に入る前に、本題のヒントとなる問いを提示し考えてもらうのです。

最初に提示する問いで大切なのは、生徒が“自分の中”から答えを探せるものにするということです。例えば「地域のPR方法」が本題だとしたら、まずは「自分が思う地域の良さ」を最初の問いとして示します。そして自分の体験や思い出を、考える手がかりにするよう生徒たちに伝えます。

本題に応じて、自分の欲求や関心ごと、悩みなどが、最初の問いになることもよくあります。

まずは自分の中から、問いの答えを考えてみる。出される意見は、個性が反映されたものになりますし、課題が自分ごと化されるので、授業への態度も主体的になります。

②「なんで?」と質問をする。生徒が自分の中から考える、最初の問い。まずは個人で考え、その後チームで話し合いを行います。話し合いの質を高めるコツの1つは、「質問をし合うこと」です。そのため話し合いの前に、「気になる意見があったら、なんで?と質問をし合ってみよう」と生徒たちに伝えます。

自分の欲求や関心ごとについて、「それ、なんで?」と質問がある。答えるために生徒は、自分の内面に深く潜り、その理由や原因を探ります。それが自分の本音や欲求の本質のようなものに気づききっかけになるのです。

③安全な場をつくる。自分の本心を他者に話すことは、慣れないうちは恐怖が伴います。批判や否定をされたらどうしようと、不安がよぎるからです。そのため、「批判をしない」「聞いていることを態度で示す」などを、“話し合いのルール”として事前に生徒たちに伝えます。詳しくは、『啓く通信 7号』で触れた通りです。



### 3 授業の心構え

個性を引き出す対話型授業を行う際、私には心がけていることが3つあります。1つ目は、生徒たちが持つひらめく力や発想する力を信じ、場をゆだねることです。2つ目は、生徒から自分とは異なる感性や価値観の意見が出ても、それを許し受け止めること。3つ目は、授業を通して私自身も学び、楽しむことです。

対話型授業で大切なのは、気づきあいです。教える側と教えられる側という枠を外し、その場にいる全員で場をクリエイティブしていく。その心構えが大切だと考えています。

## 博報堂流・体験ワーク③ 授業の課題を解決するアイデア

私がよく行う、課題解決をテーマにしたプログラムをご紹介します。生徒たちが当事者意識を持ちながら取り組み、授業に対する生徒の悩みや解決のヒントを得ることができる内容です。所要時間は50分間です。

- 1 最初の問いは、「あなたが感じる授業の課題(不満・変えたいところ)」です。まずは生徒が個人で、自分の思いを紙に書き出します。その際、「正解はない」「自分の主観を大切に」「たくさん考える」を伝えます。(作業3分間)
- 2 4人前後でチームをつくり、共有の話し合いをします。話し合いの前に、「他者の意見を批判しない」などのルールを伝えます。「気になった意見に質問をする」ことも伝えます。(話し合い10分間)
- 3 たくさんの課題の中から、「焦点を当てる課題」をチームごとに1つ選びます。(話し合い2分間)
- 4 その課題を生み出している原因を、想像力を駆使しながら話し合い、掘り下げます。そして重要だと思う原因に対する解決アイデアを考えます。この時の話し合いは、できるだけメモをするよう伝えます。(話し合い10分間)
- 5 発表に向け、考えをまとめる話し合いを行います。発表することは、①焦点を当てた課題、②重要な原因、③解決のアイデアの3つであると生徒たちに伝えます。1チームあたりの発表時間も伝えます。(話し合いと作業3分間)
- 6 チームごとに発表。(全体で10分間程度)
- 7 発表へのフィードバックと振り返りの時間。(3分間)